



# NACISIS-CAT NCR2018適用はじまる

ーコーディングマニュアル・目録情報の基準改訂説明会

---

## 目録情報の基準

日時：2024年9月13日（金） 13:00-17:00

場所：国立情報学研究所

これからの学術情報システム構築検討委員会  
システムワークフロー検討作業部会  
目録・メタデータ班  
村上 遥（東京外国語大学）

# 検討の経緯

日付	出来事	文書等	発行者
2019年2月15日	「日本目録規則2018年版への対応」が進むべき方向として示される	これからの学術情報システムの在り方について（2019）	これからの学術情報システム構築検討委員会
2019年4月	システムワークフロー検討作業部会設置		
2022年11月1日	2023年度にNCR2018の適用を開始し、相互運用性を高めることが示される	これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針について（2022）	システムワークフロー検討作業部会
2023年12月	「コーディングマニュアル」、 「目録情報の基準」改訂案公開		
2023年12月22日～ 2024年1月31日	第1回パブリックコメント		
2024年2月19日～ 2024年3月18日	第2回パブリックコメント		
2024年6月24日	「コーディングマニュアル」、 「目録情報の基準」改訂案確定		第40回これからの学術情報システム構築検討委員会
2024年10月31日	NCR2018の適用を開始		



# NCR2018①

- NCR2018は無料で見られます。

※冊子体のほうが見やすいけれど（私見ですが）

- 2022年度から、更新事項はPDF版に適宜反映

※ただし、NACSIS-CATへの即時反映はせず、検討した結果必要な修正をNACSIS-CATのマニュアル（目録情報の基準、コーディングマニュアル等）に加え、ニュースレターなどでお知らせします。

- データ作成事例もあります。

## 日本目録規則（NCR）2018年版関連情報

目録委員会 / Last update: 2024.8.17

当ページへのリンクはこちら: <http://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018-info>

日本図書館協会目録委員会

[規則（最新版）](#) / [本規則について](#) / [過去の条文](#) / [その他の関連情報（記事、方針文書等、プレゼンテーション等、会議等、委員会）](#) / [ご意見・ご質問](#) / [更新履歴](#)

[PDF版の更新について（2024.5.1）](#) / [データ作成事例追加\(2024.3.15\)](#) / [第4刷正誤表（2024.5.1）](#)

### 規則（最新版）

『日本目録規則2018年版』を2018年12月25日に刊行し、2019年1月7日にPDF版を公開しました。

2023年3月1日、2024年5月1日に、PDF版の更新を行いました。

- [冊子体販売ページ](#)（日本図書館協会, 2018.12.25, 761ページ, 本体価格5,000円） [第1刷正誤表](#) [第2刷正誤表](#) [第3刷正誤表](#) [第4刷正誤表（2024.5.1）](#)
- [PDF版（2024.5.1更新）](#)

- [PDF版（2024.5.1更新）](#)

[データ作成事例](#)（2021.12.24 Last Update:2024.3.15）

<http://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018-info>  
（2024/8/22閲覧）

# どれくらい違うのか…

日本目録規則 1987年版改訂3版  
(2006年刊行)

## 目次

- 第1部 記述
- 第1章 記述総則
- 第2章 図書
- 第3章 書写資料
- 第4章 地図資料
- 第5章 楽譜
- 第6章 録音資料
- …
- 第2部 標目
- 第3部 排列

## 付録

日本目録規則 2018年版

## 目次

- 第1部 総説
- 第2部 属性
- ＜属性の記録＞

- セクション1 属性総則
- セクション2 著作、表現形、体現形、個別資料
- セクション3 個人・家族・団体
- セクション4 概念、物、出来事、場所
- ＜アクセス・ポイントの構築＞
- セクション5 アクセス・ポイント
- 第3部 関連

## 付録

# NCR2018② 基礎

## 概念図・用語の説明

- [目録委員会報告](#)

- [序説](#)

- 第1部 [総論](#)

- [第0章 総説 \(2024.5.1更新\)](#)

- 第2部

- <属性の記録>

- セクション1 属性総則

- [第1章 属性総則](#)

- セクション2 著作、表現形、体現形、個別資料

- 第2章 体現形

- [#2.0 \(通則\) ~ #2.2 \(責任表示\) \(2024.5.1更新\)](#)

- [#2.3 \(版表示\) ~ #2.4 \(順序表示\) \(2019.7.5更新\)](#)

- [#2.5 \(出版表示\) ~ #2.9 \(著作権日付\) \(2024.5.1更新\)](#)

- [#2.10 \(シリーズ表示\) ~ #2.13 \(刊行頻度\)](#)

- [#2.14 ~ #2.33 \(キャリアに関する情報\) \(2022.1.28更新\)](#)

- [#2.34 \(識別子\) ~ #2.42 \(キャリアに関する注記\) \(2024.5.1更新\)](#)

付表 コア・エレメント一覧

体現形の属性

a) タイトル

本タイトル (参照: #2.1.1 を見よ。)

b) 責任表示

本タイトルに関する責任表示 (複数存在する場合は最初に記録する一つ) (参照: #2.2.1 を見よ。)

c) 版表示

① 版次 (参照: #2.3.1 を見よ。)

② 付加的版次 (参照: #2.3.5 を見よ。)

<https://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018>  
(2024/8/22閲覧)

# NCR2018③基礎

- [目録委員会報告](#)
- [序説](#)
- 第1部 総説
  - [第0章 総説](#) (2024.5.1更新)
- 第2部 属性
  - [第1章 属性総則](#)
  - [第2章 体現形](#)
    - [#2.0 \(通則\) ~ #2.2 \(責任表示\)](#) (2024.5.1更新)
    - [#2.3 \(版表示\) ~ #2.4 \(順序表示\)](#) (2019.7.5更新)
    - [#2.5 \(出版表示\) ~ #2.9 \(著作権日付\)](#) (2024.5.1更新)
    - [#2.10 \(シリーズ表示\) ~ #2.13 \(刊行頻度\)](#)
    - [#2.14 ~ #2.33 \(キャリアに関する情報\)](#) (2022.1.28更新)
    - [#2.34 \(識別子\) ~ #2.42 \(キャリアに関する注記\)](#) (2024.5.1更新)

## 第1章 属性総則

#1.11 統制形の記録 .....	
<#1.11.1~#1.11.4 言語> .....	
#1.11.1 日本語 .....	
#1.11.1 日本語 別法 .....	
#1.11.2 中国語 .....	
#1.11.2 中国語 別法 .....	
#1.11.3 韓国・朝鮮語 .....	
#1.11.4 日本語、中国語、韓国・朝鮮語以外の言語 .....	
#1.11.4.1 表示形 .....	
#1.11.4.2 翻字形 .....	

<https://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018>  
(2024/8/22閲覧)

# NCR2018④ 書誌データは体現形を見る

- 目録委員会報告

- 序説

- 第1部 総説

- 第0章 総説 (2024.5.1更新)

- 第2部 属性

- <属性の記録>

- セクション1 属性総則

- 第1章 属性総則

- セクション2 著作、表現形、体現形、個別

- 第2章 体現形

- #2.0 (通則) ~ #2.2 (責任表示) (2024.5.1更新)
- #2.3 (版表示) ~ #2.4 (順序表示) (2019.7.5更新)
- #2.5 (出版表示) ~ #2.9 (著作権日付) (2024.5.1更新)
- #2.10 (シリーズ表示) ~ #2.13 (刊行頻度)
- #2.14 ~ #2.33 (キャリアに関する情報) (2022.1.28更新)
- #2.34 (識別子) ~ #2.42 (キャリアに関する注記) (2024.5.1更新)

- 第2章 体現形

- #2.0 (通則) ~ #2.2 (責任表示) (2024.5.1更新)
- #2.3 (版表示) ~ #2.4 (順序表示) (2019.7.5更新)
- #2.5 (出版表示) ~ #2.9 (著作権日付) (2024.5.1更新)
- #2.10 (シリーズ表示) ~ #2.13 (刊行頻度)
- #2.14 ~ #2.33 (キャリアに関する情報) (2022.1.28更新)
- #2.34 (識別子) ~ #2.42 (キャリアに関する注記) (2024.5.1更新)

<https://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018>  
(2024/8/22閲覧)



# NCR2018⑤ 典拠データ

## ◦ セクション3 個人・家族・団体

- 第6章 個人 (2022.1.28更新)
- 第7章 家族
- 第8章 団体

## ◦ セクション5 アクセス・ポイント

- 第21章 アクセス・ポイントの構築総則
- 第22章 著作
- 第23章 表現形
- 第24章 体現形 (保留)
- 第25章 個別資料 (保留)
- 第26章 個人
- 第27章 家族
- 第28章 団体 (2022.1.28更新)

典拠データの中に記録する項目

書誌データ+典拠データのHDNG  
に記録する項目

<https://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018>  
(2024/8/22閲覧)

# NCR2018⑥ 付録も忘れずに

## ○ 付録

- [A.1 片仮名記録法](#)
- [A.2 大文字使用法\(2022.1.28更新\)](#)
- [A.3 略語使用法](#)
- [B.1 語彙のリストの用語](#)
- [B.2 三次元資料の種類を示す用語と用いる助数詞\(追加分\)\(2024.5.1更新\)](#)
- [C.1 関連指示子：資料に関するその他の関連\(2024.5.1更新\)](#)
- [C.2 関連指示子：資料と個人・家族・団体との関連\(2023.3.1更新\)](#)
- [C.3 関連指示子：資料と主題との関連\(保留\)](#)
- [C.4 関連指示子：個人・家族・団体の間の関連\(2023.3.1更新\)](#)
- [C.5 関連指示子：主題間の関連\(保留\)](#)
- [D 用語解説\(2024.5.1更新\)](#)

## ○ [索引\(2024.5.1更新\)](#)

- [A.1 片仮名記録法](#)
- [A.2 大文字使用法\(2022.1.28更新\)](#)
- [A.3 略語使用法](#)

- [C.2 関連指示子：資料と個人・家族・団体との関連](#)

<https://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018>  
(2024/8/22閲覧)

# 適用細則① 使い方

エレメントID	条項番号	条項見出し	NCR2018	対応C.M.項番	適用/一部適用/非適用の理由	NDL適用/非適用
	#2.2.0.4.1	複数の名称を含む責任表示 任意省略1	4以上の名称を含む責任表示において、その役割(または責任の程度)が同一の場合は、最初に表示された名称を記録し、他の名称は省略する。データ作成機関が目録用言語として定めた言語および文字種で、省略した部分を説明する語句を、情報源に表示されているこの使用などで記録する。	一部適用	4以上の名称を含む責任表示において、その役割(または責任の程度)が同一の場合は、主たる名称、あるいは最初に表示されている名称一つだけを記録し、他は「ほか」などの語を補記して、省略することができる。 三木清 [ほか] 著 by Jerry L. Mashaw [and five others]	
	#2.2.0.4.2	複製	表示順序等から異なる順(着)	適用		適用
	#2.2.0.4.3	役割を示す語句	情報源に表示されている個人・家族・団体の役割を示す	適用		情報源に表示されている個人・家族・団体の役割を示す語句は、非適用
	#2.2.0.4.3A	和古書・漢籍	<転記省略>			
	#2.2.0.4.4	責任表示に付随している	責任表示に他の語句が付随している場合、または本来、	適用		責任表示に他の語句が付随している場合、または本来、タイトル
	#2.2.0.4.5	語句等による個人・家族・	記述対象の内容との関係を示す語句等による個人・家	適用		適用
	#2.2.0.4.6	個人・家族・団体の名称を	個人・家族・団体の名称が表示されていない場合も、	適用		適用
	#2.2.0.5	複製	複製については、原資料の責任表示ではなく複製自体	一部適用		複製については、複製自体の責任表示を記録する。必要に応じ
	#2.2.0.6	変化	複数巻単行資料、逐次刊行物または更新資料におい	一部適用		適用
ES	* #2.2.1	本タイトルに関する責任	本タイトルに関する責任表示は、責任表示のエレメン	適用		適用
	#2.2.1.1	記録の範囲・情報源				

①NCR2018の条項とCATのコーディングマニュアルの項番を対照できる

②その条項がCATで適用されるか確認できる

# 適用細則② 一部適用の例

エレメントID	条項番号	条項見出し	NCR2018	対応C.M.項番	適用/一部適用/非適用の理由	NDL適用/非適用
	#2.2.0.4.1	複数の名称を含む責任表示 任意省略1	4以上の名称を含む責任表示において、その役割(または責任の程度)が同一の場合は、最初に表示された名称を記録し、他の名称は省略する。データ作成機関が目録用言語として定めた言語および文字種で、省略した部分を説明する語句を、情報源に表示されていないことが分かる方法(コーディング、角がっこの使用など)で記録する。 三木清 [ほか] 著 by Jerry L. Mashaw [and five others]	一部適用	4以上の名称を含む責任表示において、その役割(または責任の程度)が同一の場合は、主たる名称、あるいは最初に表示されている名称一つだけを記録し、他は [ほか]などの語を補記して、省略することができる。 三木清 [ほか] 著 by Jerry L. Mashaw [and five others]	
			NCR2018	適用		適用
				適用		情報源に表示されている個人・家族・団体の役割を示す語句は、非適用
				対象外		

NCR2018  
4以上の名称を含む責任表示において、その役割(または責任の程度)が同一の場合は、**最初に表示された名称を記録し、他の名称は省略する**。データ作成機関が目録用言語として定めた言語および文字種で、省略した部分を説明する語句を、情報源に表示されていないことが分かる方法(コーディング、角がっこの使用など)で記録する。

三木清 [ほか] 著  
by Jerry L. Mashaw [and five others]

## 同一の役割の責任表示が4人以上書かれている場合

- ・NCR2018は「最初に表示された名称」を書くが、C.M.は「主たる名称、あるいは最初に・・・」となる
- ・NCR2018は「データ作成機関\*が定める方法で記録」として省略方法を定めていないが、C.M.は補記とすることを指示している。

## 適用/一部適用/非適用の理由

4以上の名称を含む責任表示において、その役割(または責任の程度)が同一の場合は、**主たる名称、あるいは最初に表示されている名称一つだけを記録し、他は [ほか]などの語を補記して、省略することができる**。

三木清 [ほか] 著  
by Jerry L. Mashaw [and five others]

\*データ作成機関 = CATの共通ルール (×個々の参加館ではない)

# 適用細則③ 作成方針 & どこで見られる？

- 図書・雑誌・典拠データを対象
- 和洋に適用
- 現行運用を維持する方針、必要最小限の修正
- コーディングマニュアルの51章にリンク [9月末公開予定]

## 第5部 日本目録規則

### 第51章 適用細則

# 目録情報の基準①方針

- CATPの仕様は変更しない

コード追加（タイトルの種類、出版等の役割表示、件名の種類、著者名典拠の属性）はあり）

- CAT2020の作業方針（VOLばらしなど）は変更しない

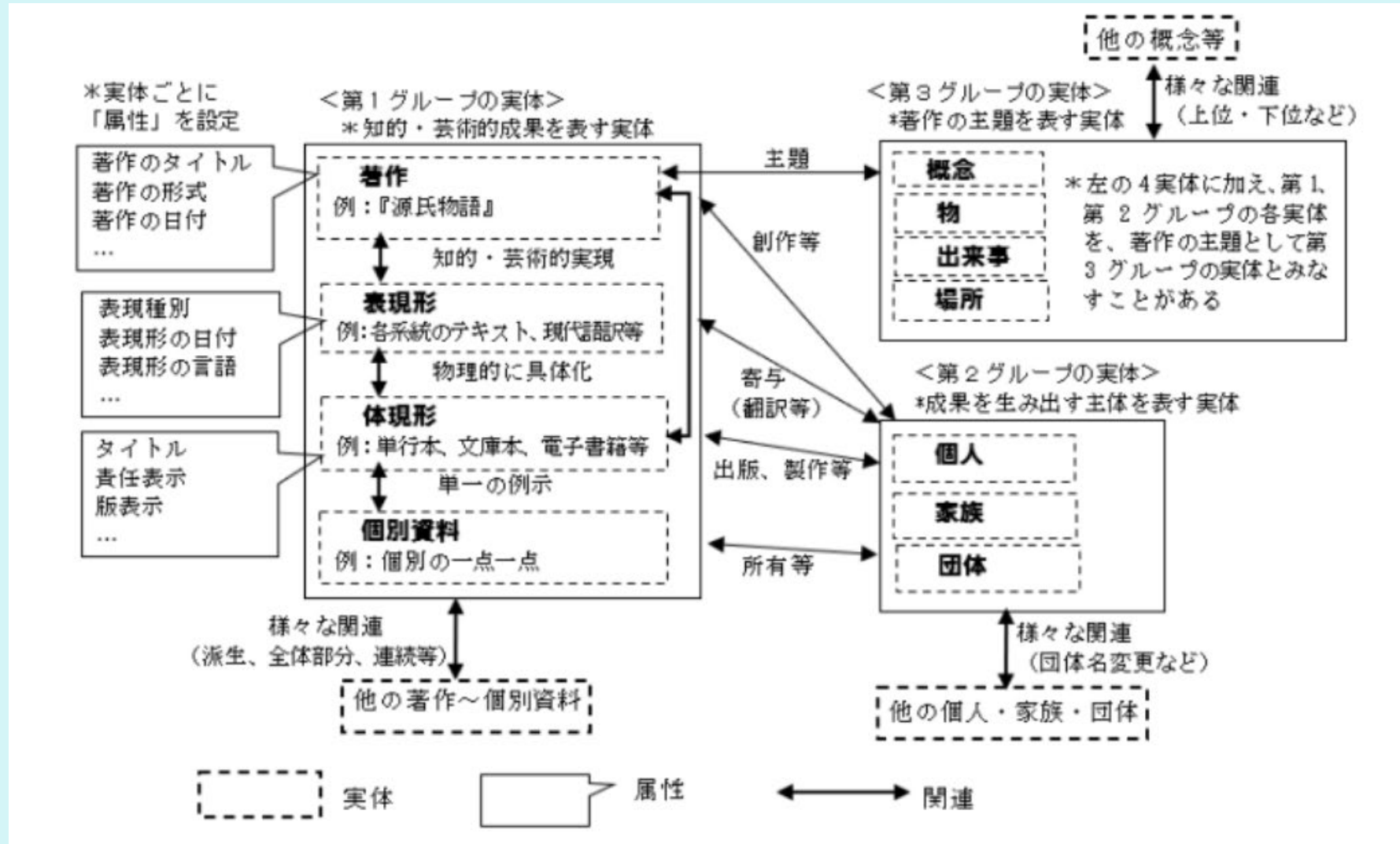
- 2024年10月30日以前のデータの遡及的な変更は行わない

- NCR2018対応の要点は第0部にまとめる [新設]

- 第0部にまとめた用語のうち、対応する概念があるおもな用語を変更

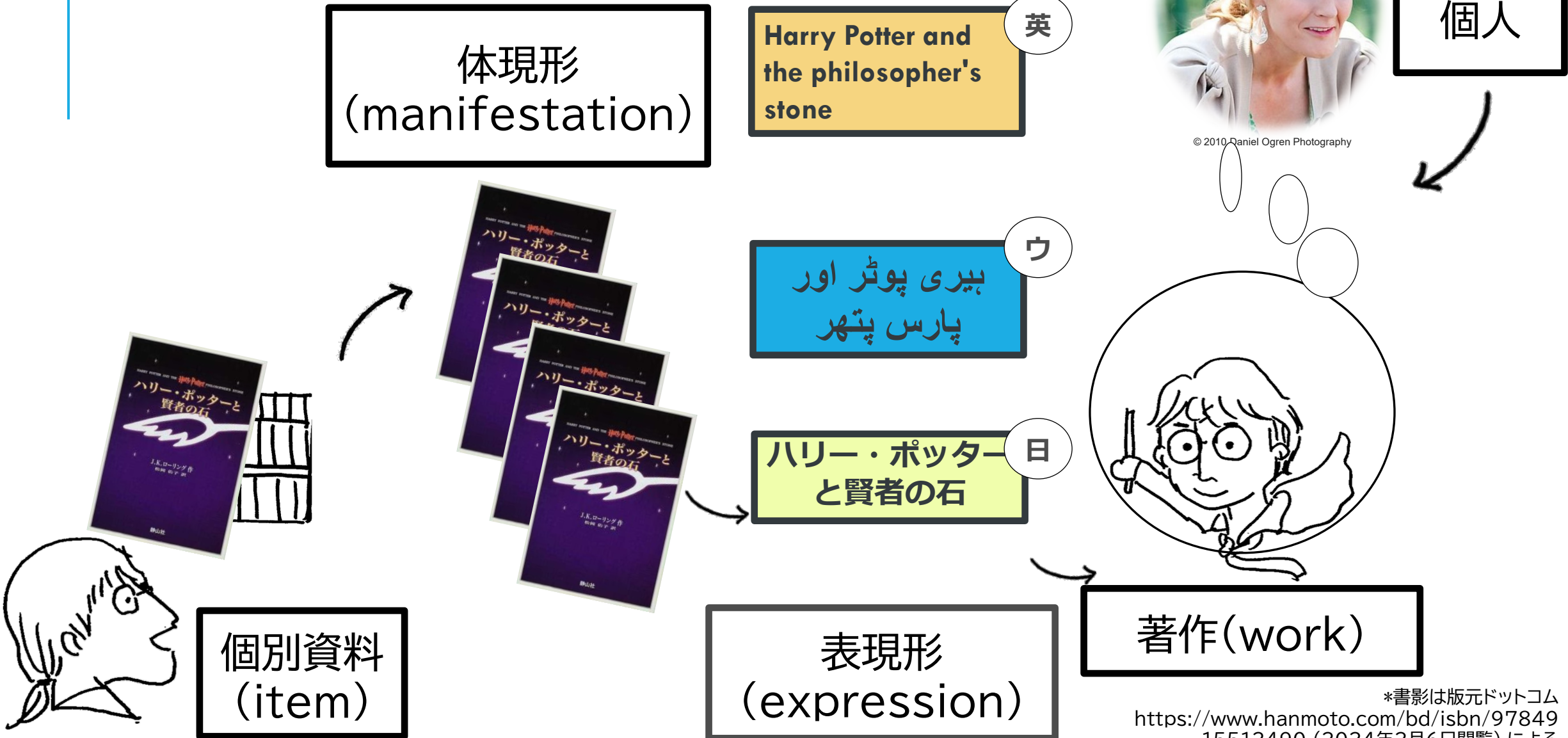
例) 統一標目形→典拠形アクセス・ポイント

# 目録情報の基準②NCR2018の概念モデル



<https://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018/>  
(2024/8/22閲覧)

# 例えば...



\*書影は版元ドットコム  
<https://www.hanmoto.com/bd/isbn/9784915512490> (2024年2月6日閲覧) による



# 目録情報の基準③CATと実体

NACSIS-CATでは統一書名典拠データセットを、著作の典拠データセットとし、<中略>書誌データとの関連はリンクブロックのUTLデータで表される。

表現形については独立したデータ作成は行わないが、UTLデータ上に表現形の識別要素を記録することができる。

体現形が書誌データ作成の基本になるが、書誌データの中には上記の著作、表現形の要素も含んだ形となる。

個別資料は所蔵データとして表される。



# “Look through FRBR glasses”

「いまある情報をFRBRに読み  
替えるのよ」

村上遥. “図書紹介RDA 資源の記述とアクセス 理念と実践”  
<https://doi.org/10.1241/johokanri.57.864> (2024/8/22閲覧)

# 目録情報の基準⑤ おもな変更点 [1]

## ● 準拠する目録規則の統一

NCR2018は洋資料の運用も想定された規則であることから、和資料と洋資料の目録規則を NCR2018 に統一する。目録用言語は従来通り、和資料は日本語、洋資料は英語とする。

# 目録情報の基準⑤ おもな変更点 [2]

- 統一書名典拠データセットが「著作典拠データセット」に変更 (0.1.1)
- 著者名典拠データのC.M.に「家族」の項目が新設(0.2.2)
- 「著作典拠データ」の作成範囲に「e)その他識別する必要があると判断した著作」が追加 (9.2.1)

これまでは、a)日本、中国等の古典籍、b)聖典、c)無著者名古典、d)音楽作品まで

## 目録情報の基準⑥ ポイント [1]

### コア・エレメント≡「必須」

#### コア・エレメントとは？

資料の発見・識別に欠かせないもの



NACSIS-CAT では、「コア・エレメント」を「必須 1」、「必須 2」とする。

NACSIS-CATのシステム上必要となる場合は、  
NCR2018で「コア・エレメント」でない「エレメン  
ト」も「必須 1」、「必須 2」とすることができる。

例) 本タイトルのヨミ、版に関する責任表示、GMD/SMD…

## 目録情報の基準⑥ ポイント [2]

### 表現種別・機器種別・キャリア種別≠GMD,SMD

- 「機器種別」「キャリア種別」「表現種別」はNOTEに書く →基準の表0-1, 0-2, 0-3を参照
- NCR2018適用後も、GMD/SMDは継続する。  
NCR2018の資料の種別は、NACISIS-CAT の一般資料種別コード, 特定資料種別コード(GMD/SMD) とは体系が異なるため

と、色々ありますが、  
これまでの目録作成作業と変わらない作業感を  
目指しています。

“Look through FRBR  
glasses”

「いまある情報をFRBRに読み  
替えるのよ」





いざ、

コーディネィング  
マニュアルへ